

SAJ公認パトロール
研修会出張会場

各種技術の確認



実践救急法

各スキー場からの報告

隣県スキー場からゲレンデを守る六名の仲間が参加した、SAJ公認パトロール研修会が網張スキー場で開催されました。

初日の座学は、奥田先生による“笑いを誘うスキー救急法”とジャパン救急サービスの実践救急機材の紹介。救急実態を交えながらの熱弁で時間が足りなくも感じました。フリートリーキングでは、四年前北海道ニセコひらふ国際スキー場で発生したスキーヤー同士の衝突事故、傷害賠償の判決が新聞に掲載され、最高裁の考え方が初めて示されました。これは今後、スキー事故の判例になる可能性があります。があり我々パトロー

ルにとって極めて重要な判決と位置付け、主なスキー場からの実態報告しながら討論しました。雪上研修では、基礎技

(二) オリジンピック選手

ハ公認パトロール受又験

元オリンピック選手の岩谷高峰さんが、公認パトロール受験(三四期)をしていましたので原稿依頼をしました。

受験の動機

私が今回受験した理由にはいくつかの理由と動機があります。

一つ目は、子供のころ

術の確認、搬送と応用技術、ロープワークは結索の各種類の確認、三角巾は各部位の包帯など、実技研修はたっぷり時間を取っての忘れた部分を思い出しながらの研修会でありました。

情報交換では、フリートリーキングで話し合い熱く語り合い長い長い夜でありました。

天候を心配しながらの研修会でありましたが無事終了しました。

一九九五年度(三四期)
SAJ公認パトロール合格者

氏名	年齢	所属P
中田 迪	四八	盛岡
佐藤 修二	二六	八幡平
晴山 直樹	二六	八幡平
高橋 徹	二〇	越路
国枝 康彦	三〇	八幡平
吉田 敏	一五	八幡平
菅原 健	二九	夏油
高畑 伸也	二三	網張
阿部 智浩	二三	夏油

がない程であります。

二つ目は、現役後に指導者として選手のトレーニングに携わり事故の現場で対応できないことで非常に情けなく感じたことや悔しい思いをしたことが上げられます。同様に今後の指導活動の中で救急対応や安全確保の重要性を感じたからであります。

しかし、最大の動機は私が生まれ育った青森県の知人や関係者に公認パトロールの有資格者がたくさんいたことであり、特に春スキーのメッカである岩木山では事故災害が多く、その際の迅速な

対応とチームワークに強く感銘したことが最大の理由であろう。

今後の活動

子供から熟年スキーヤー、ゲレンデスキーから競技スキーまでの指導者としてのパトロール活動となるでしょう。具体的には現在年間十回以上行っているレーシングキャンプにおいて、安全な環境を提供すると共に事故の発生した際に素早く対応することであり、特に会場がその都度異なるため周りの環境には十分気をを使う必要があるのです。

また、来期にオープン予定で私の地元でもある青森県の岩木山に計画されているスキー場での活動があります。ここでは、スキー学校を運営し、同時にスキー場運営にも携わる予定でいます。一般スキーヤーのためのゲレンデ管理、スキー学校の安全な指導等様々な方向からパトロール活動を展開していきたいと考えています。